

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2018年2月19日

No.10

**会社：1月からの雪害で計画は未達である！
引き続き収入拡大にむけて努力する**

**組合：現場では要員不足の中、安全を最優先して収入拡大に向けて奮闘している
この奮闘に対して誠意ある回答を示すべき！**

～第2回 2018JR総連春闘交渉報告～

中央本部は、本日第2回春闘交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

- ①コンテナは、相次ぐ輸送障害によって約2億7000万円の減収となっている。合わせて北海道産の玉葱も雪害による運休等で低調に推移している。紙・パルプは需要減少により計画を下回っている状況である。
- ②車扱については石油が気温低下に伴い特に灯油の需要が増加したことに加えて、配送圏の見直しにより鉄道へのシフトが進んだことから好調に推移し、車扱い全体ではプラス4700万円（103.8%）となった。
- ③コンテナ・車扱の合計では、対計画では99.9%、前年比104.1%となった。

【関連事業部門】

- ①茅ヶ崎分譲マンションの引渡や、磐田分譲マンションの土地売却を進めることにより、1月期改定計画の達成をめざしている。
- ②鉄道事業部門は一時貸付を含めた土地・建物貸付の拡大等により、1月期改定計画（収支改善目標650万円含む）の達成を見込んでいる。

【組合の主張】

- ①組合員は相次ぐ輸送障害に要員不足の中、日々、収入拡大にむけて対応し、奮闘している。
- ②会社は昨年の鉄道事業部門の黒字化に、貴労組の奮闘に対して感謝しているのであれば、今春闘の回答は誠意を示すべきである。
- ③会社経営陣は今後も収入の確保にむけて、会社経営に対して責任を持って収入改善をはかっていくこと。
- ④収入減の責任を組合員に転嫁することは絶対に認めない。

【会社の回答】

- ①組合の指摘については真摯に受け止め、収入確保にむけて最大限努力する。
- ②組合員が収入確保に奮闘していることは理解している。組合の主張については真摯に受け止めて、今後交渉を積み重ねていきたい。

中央本部は、「我々はこの間、汗を流してきた。会社経営陣は、これまでの延長線上の経営姿勢を改め、経営陣として汗を流し、組合員の期待と将来に責任をもって組合の要求に満額で応えること」を主張し交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は、3月6日（火）です。